

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

7

2015 No.730

3 はじめの言葉

4 思い起こしたい

システム化の原点と哲学

田原文夫

グローバル化とは想定する帯域全体の最適化（オプチマイゼーション）を図ることである。そのために、どうするか。システム化プロジェクトの原点もここにある。そのための経済論にしても、情報共有論にしても、グローバルオプチマイゼーション（全体の最適化）を見据えてのものである。そこでも、グローバルに対するリージョナル、ローカル／パーソナルな様々な既得権益との葛藤と軋轢を乗り切る努力が必要となる。換言すれば、システム化とは既存勢力の帯域スキームを破壊し、新たなスキームを創出することである。

10 情報社会を考える その58

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

空母7隻の威力？

歴史認識云々論が喧しい。ではいつの時代の歴史認識を問題にしているのか。というと、70年も前に終わった世界規模での戦争時におけるものに集中してのものが多い。どうも、そこで歴史が停滞してしまっているかのように思えてならない。

日本もそして周辺国も、戦後に誕生した世代の割合がほとんどである。自分が実感したことでも、ましてや自分が体験したことでもない、身に覚えのない時代の歴史事実を摺り合わせる議論は大概にしておくべきだろう。まったく馬鹿げた議論だとは言わないまでも、当事者でもない若い者同士が、伝え聞かされた範囲、教え込まれた範囲をもとに論じ合うなど、とても効率的な時間活用だとは思えない。

12 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM構築が必要か その53

水田 浩

オープンガバメント OG 19 工業化社会をデジタル化する

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つのCALSという概念（言葉）で1995年から2005年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

19 連載 アーキテクチャ論 (51)

TRIZ とシステムグラム

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

アルトシュラーが特許を分析した結果に基づいて考案したTRIZは革新的なアイデアを創出するための合理的な方法論である[1、2]。一方でTRIZには多数の手法が含まれていることから、なかなかTRIZの実像を把握しにくいという面もある。そこで、本稿では、システムからなるシステムを分析するための手法であるシステムグラム[3、4]を用いてTRIZを説明してみよう。システムグラムの図式を用いて複雑なシステムのアーキテクチャを分かりやすく分析できるので、複数の手法からなるTRIZをシステムとして理解できるようになる。

25 連載 日本再生と人材育成

人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その6 Dr.ベスト

「情報と人材」をテーマにマルチ人間的に生きた

あるサラリーマンの半生

マルチ人間、スーパー人間と呼ばれてもいいほど、高度成長時代からバブル崩壊、そして今日に至るまで4回の定年退職(1回目:企業の早期退職制度に基づく退職(52才)、2回目:同企業の関連会社における定年退職(60才)、3回目:某大学における定年退職(65才)、4回目:別の大学における定年退職(70才))を経験しながらも「情報と人材」をテーマに働き続けてきた男がいる。その男の生き方は人口減少／少子高齢化時代への挑戦に何らかのヒントを与えることができるのではないと思われる。その半生を「履歴書」的に紹介させていただきたい(編集部)。

33 IT新時代とパラダイム・シフト

第68回 サイバーセキュリティの推進は

政府にとって諸場の剣

根本忠明

2014年は、世界中でサイバー攻撃が急増した一年であった。政府機関や民間企業だけでなく、国民の被害も急増し、我が国も含め欧米各国はその対応に迫られた。日本では、特に2020年の東京オリンピックに照準を合わせ、サイバーセキュリティの推進体制を整えようとしている。しかし、政府主導のサイバーセキュリティ体制の強化は、諸刃の剣であり、政府による国民監視体制の強化にもつながりかねない。今回はこの部分に焦点を合わせ、最近の動向について紹介する。

36 続インテリジェンスへのいざない 66

データ漏えい／若手議員発言

における情報管理考

今井 武

改めて「情報管理」を思わせる事件が続いた。ひとつが年金データ漏えい事件であり、今ひとつは自民党の大馬鹿若手議員の勉強会での発言をめぐる事件である。

39 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリニティ 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリニティ研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛セキュリティ心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安産後編と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp